

タイトル	オンライン入学前教育コースにおける学習促進のためのMoodle LMS機能の活用
著者	ニールセン, ブライアン; 保坂, 智
引用	北海商科大学論集, 14(1): 1-19
発行日	2025-02-21

オンライン入学前教育コースにおける学習促進のための Moodle LMS 機能の活用  
**Utilization of Moodle LMS Functionality to Facilitate Learning  
in Online Pre-Enrollment Education Courses**

ニールセン ブライアン NIELSEN, Brian      保坂 智 HOSAKA, Satoshi

要旨

文部科学省は、早期大学合格から 4 月の大学入学までの間、学習者の学習習慣や学習意欲を維持するために、入学前教育を重視している。しかし、大学ごとの入学前教育の提供は、開発コストやスタッフの労働時間の問題から困難を抱えている。

本稿では、Moodle 学習管理システム (LMS) を用いて作成した 2 つのオンライン入学前教育コース (英語コースと日本語コース) における基本的な機能について概説し、その特徴について述べる。このコースにおける活用の利点はいくつもあるが、最大の利点は自動採点システムが多数の学習者に対する実施を可能にし、なおかつスタッフの関与を大幅に減らしたことである。また、Moodle LMS はスマートフォンのような身近なデバイスの活用を容易にすることにより入学前コースへの学習者の参加を促進し、さまざまな学習活動の作成を可能にするだけでなく、入学前に教師と学習者および学習者間の連帯感形成に役立つ。

キーワード: 入学前教育、自主学习、オンライン教育、学習管理システム (LMS)

**Abstract**

The Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) emphasizes the importance of pre-entrance education to maintain students' study habits and motivation during the period between early university acceptance and university enrollment in April. However, many universities face difficulty providing such pre-enrollment education due to development costs and the staff labor time required to implement it.

This paper outlines the basic functionality and features of two online pre-enrollment courses created using the Moodle Learning Management System (LMS): an English course and a Japanese national language course. There are a number of advantages to using the Moodle LMS for these courses, but the greatest advantage is that the automated grading system allows implementation for a large number of learners, while significantly reducing staff involvement. The Moodle LMS also facilitates learner participation in pre-enrollment courses by enabling the use of familiar devices such as smartphones, by allowing the creation of a variety of learning activities, and by building solidarity between teachers and students and among students prior to enrollment.

Keywords: pre-enrollment education, self-directed learning, online education, learning management system (LMS)

## 1. はじめに

「2023年度国公立大学入学者選抜状況」(文部科学省、2023年)によると、12月までに4年制大学に合格した人数の割合は、学校推薦型選抜35.9%、総合型選抜14.8%に及び、全体の50.7%を占めている。短期大学では、85.7%が12月までに同様の選抜方法で入学している(学校推薦型選抜53.3%、総合型選抜32.4%)。このため、文部科学省は、早期合格から4月の大学入学までの間、学習習慣や学習意欲を維持するための入学前教育を重視している(注1)。また一方で、大学教育への円滑な移行を考える上では、高校教育と大学教育の違いも認識すべきである。大塚ら(2019)は、入学前教育のさらなる目標として、入学生に主体的な学びを求め、自らを律する意識を醸成することが必要であると主張している。すなわち、「主体的な学び」が重視されるようになってきたとはいえ、定期試験に備え受動的に知識を吸収する傾向が強い高校教育と比べると、大学教育では自分自身を振り返り、自分が大学生としてどのような状況にあるかを常に自己評価する習慣を身につけることがはるかに求められるのである。

本論文の目的は、Moodle学習管理システム(LMS)を用いて作成された、大学入学を控えた高校生を対象とした2つのオンライン入学前コース(英語コースと日本語コース)における基本的な特徴を概説することである。この2つのオンラインコースの重要な特徴は、ほとんどの採点が自動的に行われることで、多数の学習者に実施する際にスタッフの関与を減らすことができる。さらに、これらのコースは達成可能で魅力的な学習課題から構成されており、学習者のやる気を引き出し、自己学習ができるように設計されている。つまり、学習者が常に自身の学習状況や達成度を意識しながら、主体的により上のレベルを目指した学習が可能となる。

## 2. コンテンツ制作 著作権への配慮

日本の著作権法第35条は、非営利目的で設立された教育機関における教育上の利用に限り、原則として著作物の自由な利用を認めている。その上、教育のICT化を推進するため、2018年に第35条が改正され、あらゆる形態のオンライン授業において、ライセンスなしで著作物を利用できるようになった(大学学習資源コンソーシアム、2023年)。

さらに、本学では著作権者の利益を不当に害することのないように、現在も印刷されている可能性が低い15年以上前に出版された著作物を中心に利用することを方針とした。また、利用される著作物の出典は、利用されるオンライン活動において明示される。

## 3. コース開始

受講生はメールアドレスを大学事務局に提供する。これらの受講生には、識別可能なユーザー名と初期パスワードが割り当てられ、提供された電子メールで送信される。学習者は、大学のMoodle学習管理システム(LMS)に最初にログインする際に、パスワードの変更を求められる。

ログイン後、学習者は Moodle ダッシュボードホームページ内のコースリンクをクリックする。コースページの上部に、特定のコースに合格するためにはコース合計 80%が必要であることが通知される (図 1 参照)。各コースページの上部には、Moodle モバイルアプリをダウンロードするためのリンクも表示される。

このリンクから学習者は Moodle.org ページに移動し、信頼できるアプリサイトからアプリをダウンロードすることができる。このアプリは iOS iPhone、iPad、または Android モバイルデバイスで使用可能である。各コースページの上部には QR コードがあり、モバイルアプリユーザーは簡単に QR コードをスキャンし、アプリ内の大学 Moodle サイトログインページに移動することができる。

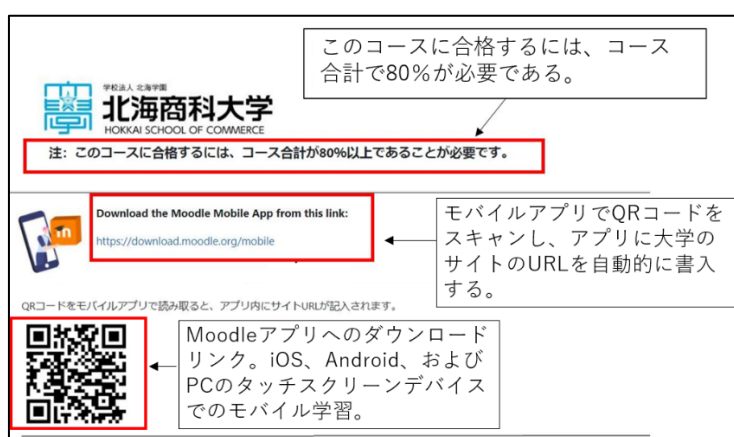


図 1. コースページのトップ

#### 4. ユーザーマニュアル

各オンラインコースページの上部には、ダウンロード可能なユーザーマニュアルへのリンクも用意されている (図 2-1 参照)。学習者はコース開始前にこの PDF ドキュメントを参照することが推奨される。このマニュアルの内容はすべて日本語で書かれており、インターフェイスの言語オプションの変更方法、コースのナビゲート方法、クイズ活動の受講方法、成績の確認方法、コンピテンシーおよびコース進捗状況の確認方法、学習活動の完了状況の確認方法、コース教師へのメッセージ送信方法が含まれている (図 2-2 参照)。



図 2-1. コースマニュアルのリンク

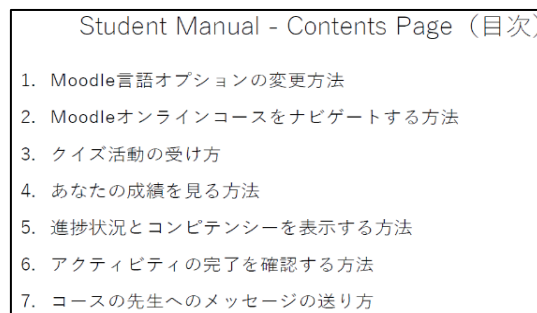


図 2-2. マニュアルのコンテンツページ

### 5. コース構成

英語と日本語どちらのオンラインコースも構成はほぼ同様である (図 3 参照)。両コースとも、最初の知識チェックから始まり、学習ユニットに分かれたオンライン活動が続く。各コースの最後には、総括的な評価テストがある。両コースを修了するのに必要な総時間は 387 分から 575 分で、この数字が大きいほど解答に要する学習者の所要時間が長いことを示し、解答のスピードが一目瞭然となる。

英語コース			国語コース		
		時間 *(分)			時間 *(分)
文法知識クイズ		20	国語知識クイズ		10-15
ユニット1	Reading	30-45	ユニット1	漢字読み	14-20
	Grammar	15-20		漢字書き	30-40
	Listening	25-40		語句/熟語	24-35
	Speaking	20-40		対義語類義語	10-15
	Writing	20-30		接続詞	7-10
ユニット2	Reading	30-45		敬語	7-10
	Grammar	15-20	最終テスト		25-30
	Listening	25-40		合計所要 時間	127-175 *(分)
	Speaking	20-40			
	Writing	20-30			
最終テスト		20-30			
	合計所要 時間	260-400 *(分)			

合計時間(両コース)387-575(分)

\*数字が大きいほど、弱い学習者が必要とする時間を表しています。

図 3. オンラインコースの全体設計

### 6. 英語コース

英語コースは 32 問の文法チェッククイズから始まる。クイズの制限時間は 20 分で、1 回のみ受験できる (図 4 参照)。

Grammar Check		
	Time Required (Mins.)	Number of Attempts Allowed
Grammar Check	20	1

Grammar Check

文法の知識をテストする。There are 32 questions in this quiz. There is a time limit of 20 minutes to finish this quiz. At the end of that time limit, your answers will be automatically submitted. You can take this quiz one time only.

Attempts allowed: 1

Time limit: 20 mins

図 4. 英語コースでの文法チェック

その後、学習者はユニットの活動に進む。各ユニットのクイズに制限時間はないが、各小テストを完了するのに必要なおおよその時間は学習者に指定される (図 5 参照)。

各小テストは回数無制限で受験することができ、最高得点が Moodle の評定ブックに記録される。各クイズの合格点は難易度により異なる。また、学習者はこれらのユニット活動

を好きな順番で受講することができる。

Unit 1 - Activities				Unit 2 - Activities			
<b>Reading</b>	<b>Time (Mins.)</b>	<b>Attempts Allowed</b>	<b>Passing Score (%)</b>	<b>Reading</b>	<b>Time (Mins.)</b>	<b>Attempts Allowed</b>	<b>Passing Score (%)</b>
Single Paragraph Reading 1	10-15	Unlimited	80%	Single Paragraph Reading 2	10-15	Unlimited	80%
Multiple Paragraph Reading 1	10-15	Unlimited	80%	Multiple Paragraph Reading 2	10-15	Unlimited	80%
Sentence Ordering 1	10-15	Unlimited	100%	Sentence Ordering 2	10-15	Unlimited	100%
<b>Grammar</b>	<b>Time (Mins.)</b>	<b>Attempts Allowed</b>	<b>Passing Score (%)</b>	<b>Grammar</b>	<b>Time (Mins.)</b>	<b>Attempts Allowed</b>	<b>Passing Score (%)</b>
Grammar Lesson 1 (接続詞と前置詞)	15-20	Unlimited	70%	Grammar Lesson 2 (代名詞)	15-20	Unlimited	70%
<b>Listening</b>	<b>Time (Mins.)</b>	<b>Attempts Allowed</b>	<b>Passing Score (%)</b>	<b>Listening</b>	<b>Time (Mins.)</b>	<b>Attempts Allowed</b>	<b>Passing Score (%)</b>
Listening for Main Ideas 1	10-15	Unlimited	80%	Listening for Main Ideas 2	10-15	Unlimited	80%
Listening for Details 1	5-10	Unlimited	100%	Listening for Details 2	5-10	Unlimited	100%
English Sounds 1	10-15	Unlimited	80%	English Sounds 2	10-15	Unlimited	80%
<b>Speaking</b>	<b>Time (Mins.)</b>	<b>Attempts Allowed</b>	<b>Passing Score (%)</b>	<b>Speaking</b>	<b>Time (Mins.)</b>	<b>Attempts Allowed</b>	<b>Passing Score (%)</b>
Talking about the Weekend - Part 1	5-10	Unlimited	80%	Classroom Conversation - Part 1	5-10	Unlimited	80%
Talking about the Weekend - Part 2	5-10	Unlimited	80%	Classroom Conversation - Part 2	5-10	Unlimited	80%
Talking about the Weekend - Part 3	5-10	Unlimited	80%	Classroom Conversation - Part 3	5-10	Unlimited	80%
Talking about the Weekend - Part 4	5-10	Unlimited	80%	Classroom Conversation - Part 4	5-10	Unlimited	80%
<b>Writing</b>	<b>Time (Mins.)</b>	<b>Attempts Allowed</b>	<b>Passing Score (%)</b>	<b>Writing</b>	<b>Time (Mins.)</b>	<b>Attempts Allowed</b>	<b>Passing Score (%)</b>
Self Introduction - Writing 1	20-30	1	70%	Best Vacation - Writing 2	20-30	1	70%
<b>Time Required (Total)</b>	<b>110-175 (Mins.)</b>			<b>Time Required (Total)</b>	<b>110-175 (Mins.)</b>		

図 5. オンライン英会話のユニット活動メニュー

英語コースの 2 つのユニットのすべてのアクティビティを終えた学習者は、最終テストを受けることになる。最終テストでは、コースで学習した文法や語彙の知識を問う 29 問とリスニング力を問う音声問題 5 問、計 34 問が出題される。制限時間は 30 分で、このテストの受験は 1 回のみである。このテストの合格目標スコアは 60% に設定されている (図 6 参照)。

Final Test			
	<b>Time Required (Mins.)</b>	<b>Number of Attempts Allowed</b>	<b>Passing Score %</b>
Final Test	20-30	1	60%

Final Test

There are 34 questions in this quiz. There is a time limit of 30 minutes to finish this quiz. At the end of that time limit, your answers will be automatically submitted. **You need a score of 60% to pass this quiz.** You can take this quiz only one time.

Attempts allowed: 1

Time limit: 30 mins

図 6. オンライン英語コースの最終テスト

### 7. 日本語コース

日本語コースは、英語コースと同様の構成になっている。学習者はまず知識チェックを受け、教師と学習者の双方が、学習者の現在の知識や能力を知ることができる (図 7 参照)。日本語コースの学習は 1 ユニットのみである。学習課題は、難読漢字の読み書きの復習と指導、四字熟語、日本語の対義語・類義語、日本語の接続詞、日本語の敬語の正しい使い方

など、日本語の語句の正しい使い方を身につけるようにデザインされている。日本語コースの最終テストでは、コースで学習した内容に直接関連する問題が出題される。

知識チェック			学習活動				最終テスト			
国語知識クイズ	時間(分)	試行回数	漢字読み	時間(分)	試行回数	合格点(%)	対義語類義語	時間(分)	試行回数	合格点(%)
10-15		1	漢字読みA(活動)	7-10	無制限	90%	対義語類義語(活動)	10-15	無制限	80%
			漢字読みB(活動)	7-10	無制限	90%	接続詞	時間(分)	試行回数	合格点(%)
			漢字書き	時間(分)	試行回数	合格点(%)	接続詞(活動)	7-10	無制限	100%
			漢字書きA(活動)	15-20	無制限	80%	敬語	時間(分)	試行回数	合格点(%)
			漢字書きB(活動)	15-20	無制限	80%	敬語(活動)	7-10	無制限	100%
			語句/熟語	時間(分)	試行回数	合格点(%)	合計所要時間	90-130(分)		
			四字熟語(活動)	7-10	無制限	80%				
			四文字熟語(活動)	7-10	無制限	80%				
			語句の意味(活動)	10-15	無制限	80%	最終テスト	時間(分)	試行回数	合格点(%)
							最終テスト	25-30	1	70%

図 7. 日本語コースの活動内容

## 8. 両コースに共通する学習の動機付けと学習効果を高める工夫

### 8-1 コースナビゲーション

上の図 7 のように、コース活動のメニューには簡単にアクセスできるようにリンクが表示されている。各コースアクティビティへのリンクもこれらのメニューの下に表示され、コースのウェブページをスクロールすると表示される設計となっている。

学習者が現在学習している活動上でも、そのユニットの前または次の活動へのリンクはアクティビティウェブページの下部に表示される(図 8 参照)。コース Web ページに戻る場合、学習者は常に Moodle コース Web ページの上部にあるパンくずメニュー (breadcrumb menu) のコースリンクをクリックすればよい。中央の「ジャンプ先」メニューも提供され、学習者はコース内のすべての活動に素早くアクセスすることができる。



図 8. 学習活動のナビゲート

### 8-2 進捗トラッキング

学習者がコースのホームページで学習の進捗状況を視覚的に追跡できるように、学習活動が正常に完了すると画像が表示されるように特別に設定されている。活動完了を示す緑色のチェックマークも、活動の右側のボックスに表示される (図 9 参照)。

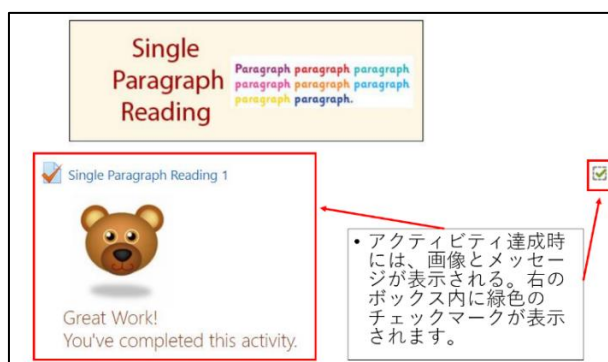


図 9. 学習の進捗を確認するための画像とチェックマーク

学習者が学習の進捗状況を確認する方法は他にもいくつかある。各コースに関連したプログレスバーは Moodle ダッシュボード (メインホームページ) に表示される (図 10-1 参照)。

特定のコースに入ると、学習者はナビゲーションメニューの「コンピテンシー」リンクをクリックすることができる。コンピテンシーページのプログレスバーは、受講者がすでに達成したコンピテンシーの数を示す。学習者はこのページを下にスクロールすることで、達成したコンピテンシーを確認することが可能となる。コンピテンシーページの活動リンクをクリックすると、学習者は直接その学習活動に移動できる (図 10-2 参照)。





図 10-1. ダッシュボードのホームページ



図 10-2. 「コンピテンシー」ページ

### 8-3 モチベーションと参加意欲の向上

Moodle バッジは、学習者の進歩や頑張りを表彰するモチベーションとエンゲージメントのツールとして使用される。これらのバッジは学習者の肯定的なフィードバックの欲求を満たすために、自己決定理論 (Ryan & Deci, 2000)の内発的動機付け向上の観点からオンライン入学前教育コースで使用される。学習者が獲得したバッジはコースページのバッジブロックに表示される。バッジは基本的に 1 つの活動完了に対して与えられるが、複数のアクティビティを完了した場合に授与されることもある (図 11 参照)。



図 11. 学習者のモチベーションを高めるためのバッジの活用

### 8-4 インタラクティブ性およびフィードバック

Moodle に組み込まれた問題形式を使用することで、コースの小テスト活動にインタラクティブ性とフィードバックを組み込むことができる。「遅延フィードバック」問題形式は標準的な問題形式で、評定される前、またはフィードバックを得る前に、学習者はそれぞれの問題に対する答えを入力し、小テスト全体を提出する必要がある。最初の知識テストおよび最終テストでは「遅延フィードバック」問題動作が使用される。

すべての問題の解答が提出された後、「遅延フィードバック」が与えられる。しかし、ヒントやメディアファイルを提供することで、フィードバックのレベルを上げることができる。例えば、「Listening for Details」学習活動では、遅延フィードバックには音声スクリプトが含まれ、学習者が次に行なう同じ小テストでその問題に正しく答えることができるように、話し言葉やフレーズを強調する赤いフォントが含まれている (図 12 参照)。元の音声

もフィードバックに含まれており、学習者が再度聞きたいときに聞くことができる。各問題の正解はこのフィードバックには含まれておらず、これをガイダンスとして利用することにより学習者は何度でもこのクイズを再受験することが可能となる。

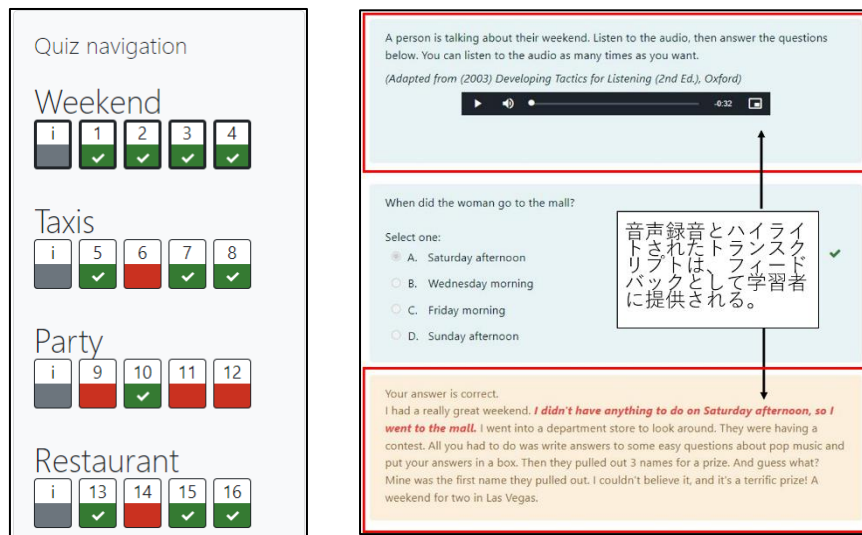


図 12. 小テスト活動における遅延フィードバック問題形式

複数受験インタラクティブフィードバック問題形式では同じ問題を複数回受験することができる（評点ペナルティ付き）。学習者は問題に答え、「チェック」ボタンをクリックし、答えが間違っている場合、「再挑戦」ボタンをクリックして新しい答えを試すことができる。例えば、下の日本語の漢字を書く学習活動では、各問題で学習者は正しい漢字を正しい文の場所にドラッグ&ドロップしなければならない。このようなクイズが 45 問ある。

学習者は各問題に答え、「チェック」ボタンをクリックする（図 13-1 参照）。しかし、答えが間違っていた場合、学習者は「Try again」ボタンをクリックして新しい答えを試すことができる（図 13-2 参照）。間違った答えはクリアされ、正解だけが残る（図 13-3 参照）。

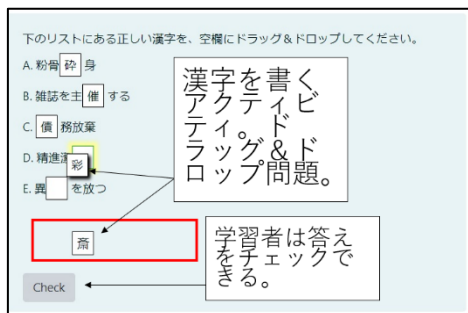


図 13-1. 漢字のドラッグアンドドロップ活動



図 13-2. 学習者は再挑戦できる

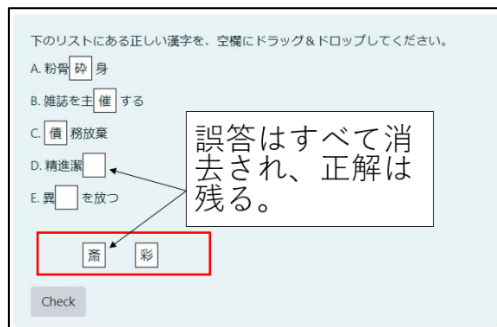


図 13-3. 誤答は消去され、正解が残る

複数回の受験が可能なインタラクティブ問題を使用する利点の 1 つは、学習者が受験するたびに特定のフィードバックを与えることができることである。例えば、図 14-1 に示す日本語の対義語学習活動では、学習者は与えられた日本語の単語の対義語を書く必要がある。その際、学習者が書く対義語には 2 つの日本語文字が含まれていなければならない。

答えが間違っていた場合、学習者には答えの最初の漢字が示される (図 14-2 参照)。学習者が再挑戦しても答えが間違っていた場合、答えの 2 番目の漢字が表示される (図 14-3 参照)。学習者は各問題に 3 回挑戦することができる。ただし、不正解のたびに減点されることになる。

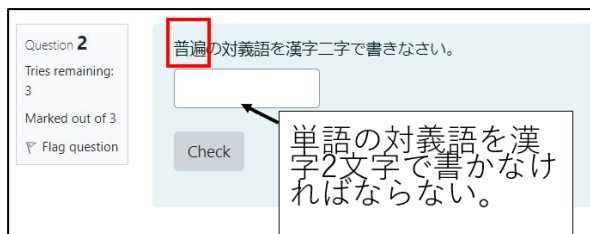


図 14-1. 対義語を書く



図 14-2. 最初の文字が示される

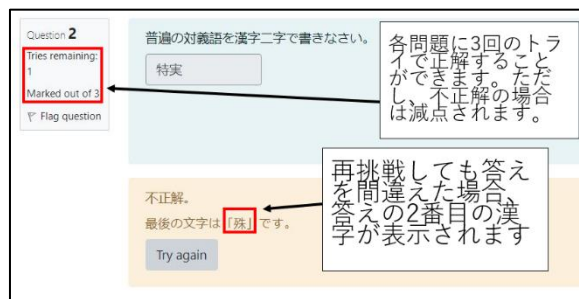


図 14-3. 2 番目の文字を示す

### 8-5 ドラッグ&ドロップ学習活動

ドラッグ&ドロップの学習活動は、楽しくインタラクティブに学習者の興味を引くことができるため、両コースで多用されている。例えば、下の2つの画像にある詳細を聞く学習活動では、学習者は複数の人が車について話している2分半の音声聞く。学習者は音声で説明されている順番に、各写真の赤いXマークに正しい番号をドラッグ&ドロップする(図15-1参照)。ただし、クイズを実行するために必要な操作は、モバイルアプリとコンピュータデバイスで異なる場合がある。例えば、モバイルアプリではドラッグ&ドロップの代わりに、学習者はまずタップしてタイルを選択し、次にタップして所定の位置にドロップする必要があるということである(図15-2参照)。

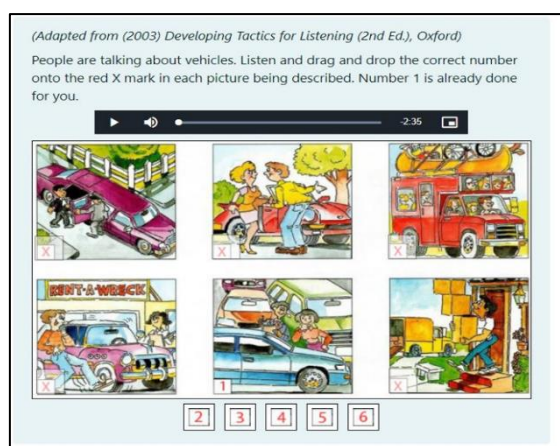


図 15-1. コンピュータ上での動作

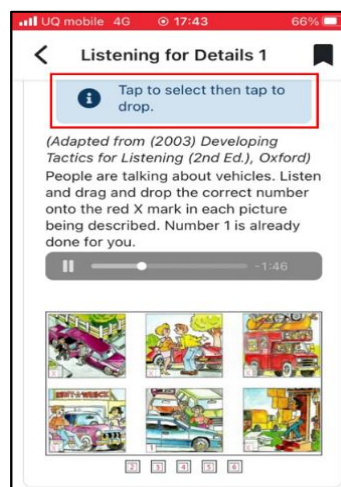


図 15-2. モバイルアプリでの動作

### 8-6 用語集ベースの語彙リンク

複数段落の英文読解テキストには、用語集ベースの語彙リンクが埋め込まれている。学習者はこれらの用語集ベースの語彙リンクをクリックすることで、英単語やフレーズの日本語の意味を知ることができる(図16参照)。

図16の多段落クイズでは、学習者はドロップダウンメニューの中から選択肢を選ぶ。すべての選択が終わると、学習者はチェックボタンをクリックし、この段階で正しい解答が表示されフィードバックされる。学習者が「再試行」ボタンを選択した場合、誤答はクリアされ、正解が残る。このため学習者は採点のために最終解答を提出する前に、1度だけ解答をやり直すことができる。

クイズを提出した後、学習者には特定のクイズ活動の評点によって異なる一般的なフィードバックが表示される。学習者は設定された合格点に達するまで、何度でもこの小テストを受けることができ、最高得点は Moodle 評定表に記録される。



図 16. 用語集に基づく語彙リンクのある複数段落のリーディング

### 8-7 無制限のトライと達成可能なゴール

ほとんどのオンライン学習活動では、間違いを恐れることなく、スキルを習得するまで何度失敗しても再挑戦することを奨励するために、無制限のトライと最高トライスコアが使用されている (図 17 参照)。

目標設定理論 (Locke & Latham, 2006) に合致するように、能力不足のために達成を不可能にすることなく、学習者一人ひとりにあった難易度の目標が提供される。



図 17. 成功するまで何度も挑戦可能

## 9. 英語コースにおける学習の動機付けと学習効果を高める工夫

### 9-1 順序付けタイプの学習活動

出来事や手順を論理的な順序で並べる能力は、文章に書かれた出来事の順序を特定する場合でも、数学の問題を解く手順を特定する場合でも、教科・分野の枠を超えて非常に大切なものである。

H5P (注2) インタラクティブコンテンツタイプの問題は、英語コースの順序クイズの学習

活動において使用されている（図 18 参照）。学習者は 6 つの順序に分かれたストーリーを論理的に時系列に並べ替える必要がある。フィードバックは文の総数のうち、正しく配列された文の数について与えられるため、学習者は 100%の合格点を獲得するまで、何度でもこの問題に対する答えを提出することが可能である。

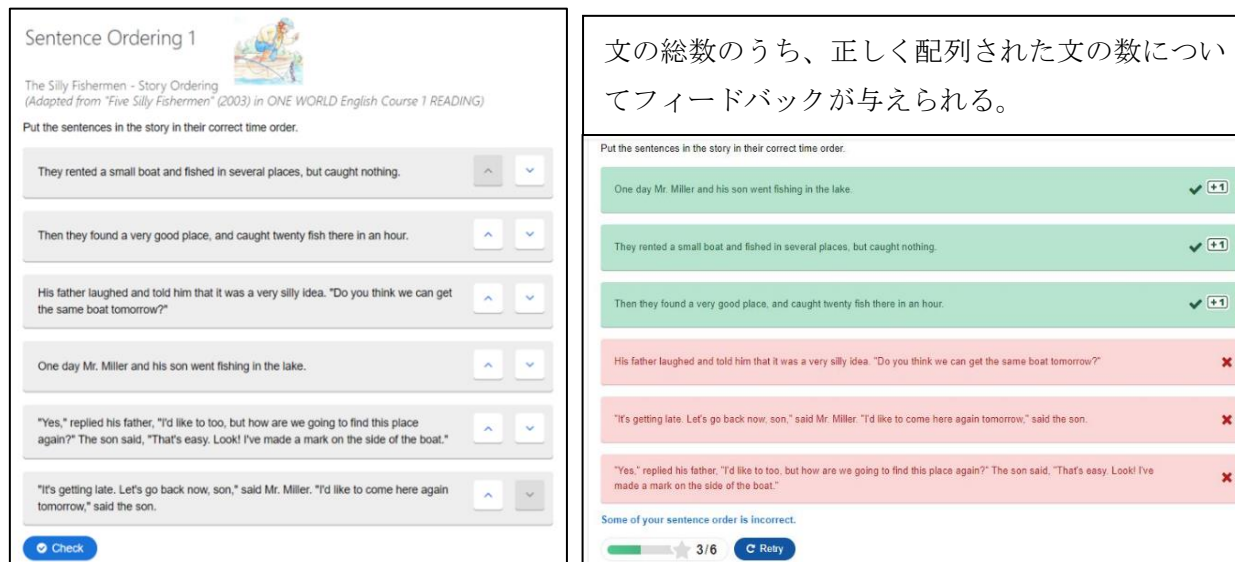


図 18. 順番クイズの学習活動：短編小説の並び替え

### 9-2 適応学習

英文法の学習は Moodle のレッスン学習活動として行われる。ユニット 1 の文法の学習目標は接続詞と前置詞であり、ユニット 2 の学習目標は代名詞である。Moodle のレッスン学習活動では、教師が「分岐」構造を作成することができる。これにより、学習者はコンテンツを提示され、その解答に応じて追加の説明テキストまたはマルチメディアを含む特定のウェブページに誘導されることになる（図 19 参照）。

このレッスン活動は「適応学習」を可能にする。つまり、学習者が問題ページで間違った答えをすると、ターゲット文法に関する詳細情報を含むウェブページに誘導される一方で、学習者が正解した場合はより短いフィードバックが表示され、レッスン活動をより早く進めることができる。

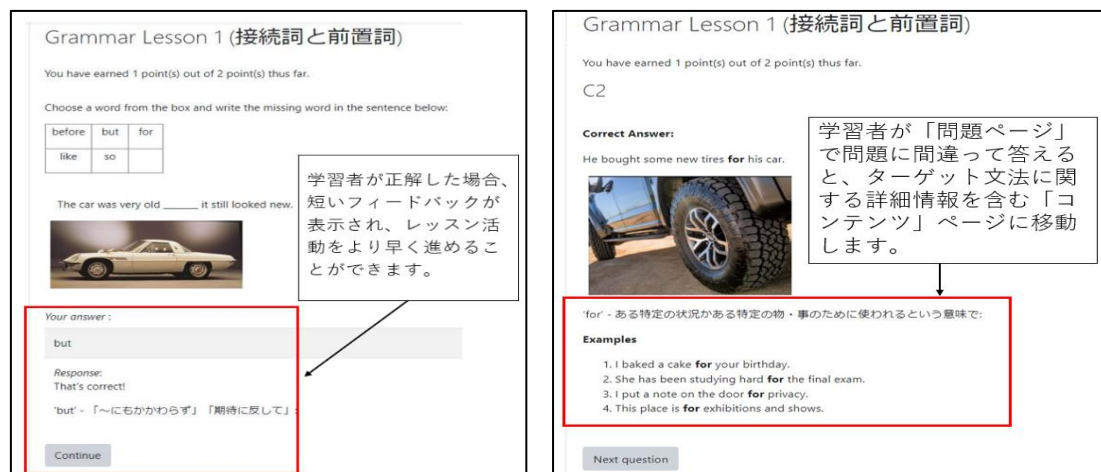


図 19. 適応学習を取り入れた Moodle 文法レッスン

Moodle のレッスン活動の最後に行われる「復習テスト」(図 20-1 参照)を受ける前に、学習者に目標とする文法の復習が提示される。このテストでは、9つの多肢選択問題からランダムに出題される。学習者がこのレッスンアクティビティを再受講するたびに、これらの復習テスト問題は異なるランダムな順番で提示される。

各レッスン活動の最後には、さらなる文法練習活動へのリンクが用意されている(図 20-2 参照)。ただし、これらのさらなる練習活動はオプションであり、これらの学習活動のスコアはコース全体の評点には入らない。

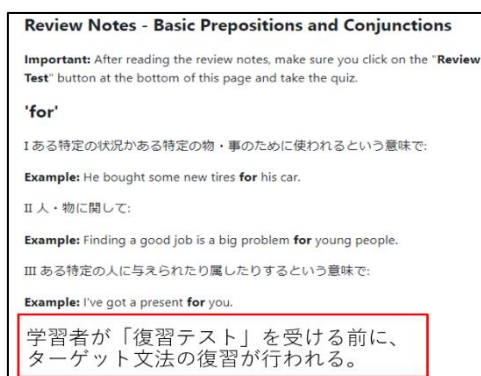


図 20-1. 文法の復習ノート

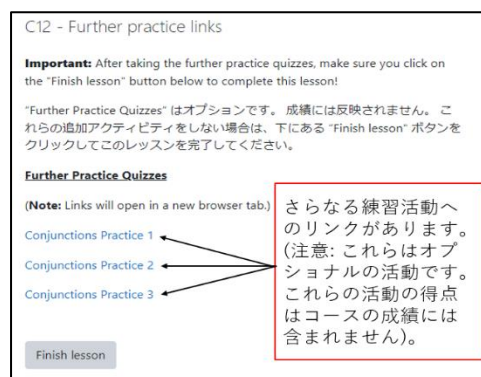


図 20-2. オプションの練習活動

### 9-3 ビデオベースのアクティビティ

英語を話す学習活動では、ビデオを使ったクイズが出題される。1つのビデオが4つのパートに分かれており、学習者はビデオの各パートに関連した質問に答えていく。ユニット1のスピーキングは過去形の動詞の復習が中心であり、ユニット2ではクラスルーム・イングリッシュと呼ばれるあいさつや指示、質問、激励などの学習が中心である。

各スピーキング・アクティビティは、さまざまな記述問題が埋め込まれた文章で構成される(図 21-1 参照)。学習者が不正解の赤い十字のアイコンにカーソルを合わせると、その

問題の答えが表示され、フィードバックが与えられる (図 21-2 参照)。

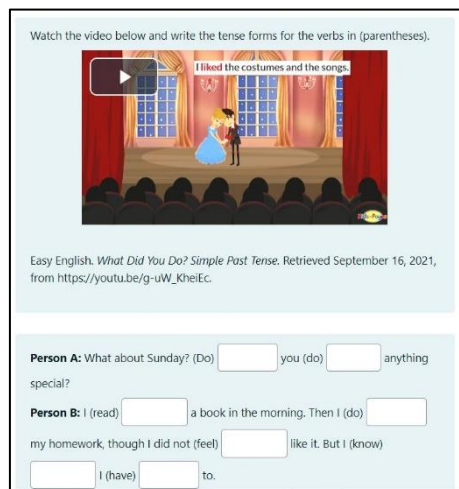


図 21-1. 記述問題



図 21-2. フィードバックの表示

#### 9-4 ディスカッション・ボード・フォーラム

英語コースでは、ライティングはディスカッション・ボード・フォーラム活動として行われる。学習者がこのフォーラムに提出できるのは 1 回のみである。これは入学前コースの中で唯一、教員による手動採点が必要な活動となる。裏を返すと、2 つのコースの他の学習活動はすべて自動的である。ユニット 1 の作文トピックは「自己紹介」で、ユニット 2 は学習者の好きな「休暇の思い出」である。

ディスカッションボードは、オンラインコースにおける学習者の社会的存在感やコミュニティ意識を高めるために使用される。つまり、教師が個性をもった一人の人間として接し、学習者と教員および学習者同士での感情的なつながりを育むことができる。また、そのことは結果として学習者の学習意欲をより向上させ、コースに対する満足感を高めることができると期待されている (Swan, 2002)。

学習者は、ライティングのトピックに関する特定の質問に答えることが求められる。これらの質問には番号が振られており、ディスカッションフォーラムの学習活動ページに表示される。また、ライティングモデルもフォーラムのアクティビティページに表示され、学習者は熟達したライティングやアイデアを文章としてまとめる方法を事前に確認することができる (図 22-1 参照)。

そして、教員によって受講者が提出したテキストに修正が加えられる。このフィードバックは、受講者が恥をかかないように、プライベートな返信で行い、訂正箇所は太字で表示される (図 22-2 を参照)。公開フィードバックも教員によって行われ、通常は学習者の文章に含まれる情報についてのコメントとなる。この公開フィードバックはコースの他の学習者全員が見ることができるため、学習者にとって刺激となり連帯感が育まれることになる。



**Example of Self Introduction:**

Hi. I am 17 years old and my hometown is Esashi in Hokkaido. It takes 5 hours to get from Esashi to Sapporo. There are 5 people in my family, including me. I have an older brother and an older sister.

I went to Esashi High School. I didn't play any sports there, but I belonged to the brass band club. I played the trombone in the band.

I want to study at this university because I want to work in a bank in the future.

I would describe myself as a serious person, because I always try to do my best. I am also a friendly person, because getting along with friends is very important for me.

I like to play Nintendo in my free time. I play it almost every day. I would like to make friends with people who play Nintendo, and can talk about it. I also want to talk about comics. For example, I'd like to talk about Detective Konar, Letter Bee and Full Metal Alchemist.

I hope to make many new friends while at university, and I would like to join the university brass band club.

ライティング・モデルを  
学習者に提供。

図 22-1. ライティングモデルを提供

This is a private reply. It is not visible to other participants.

Hi Haruna. Your writing is generally good. However, you must leave a space between a period mark (.) or a comma mark (,) and the first letter of the next word when writing English. Note the corrections to your writing, shown in **bold** font below:

Hello. I'm **18 years old** and my hometown is Data in Hokkaido. **Date** is very easy to live in because it doesn't snow much in winter. **There** are 4 people in my family. I have a mother, **an** older sister and a dog.

I went to Datekaiki High School. I belonged to the light music club. **My** band's name is "Iweedia". I played the bass in the band. **Our** band was able to play a lot.

I want to study at this university because I can learn English and commerce.

I would describe myself as a **honest** person, **because** I can lie. **Also**, I'm a forgetful person **because I forget things a lot**.

I like to **listen** to music in my free time. I mainly listen to Japanese rock and Korean hip hop and K-POP. I want to make such songs myself someday.

I hope to make many new good friends and unique friends while at university, **and** I would like to join the light music club.

この投稿はプライベートなため他の参加者は閲覧できません。

図 22-2. 添削は私的な返信として

ルーブリックは学習者のライティングを採点し、さらにフィードバックを提供するために使用される (図 23 参照)。ルーブリックは、自己評価と自己学習を可能にし、手動採点をより正確で偏りのない、一貫性のあるものにする (De Silva, 2014)。

<b>ライティングの正確性</b>	非常に悪い。基本的なミスが多い。 <b>0 points</b>	理解できるが、いくつかの誤りがある。 <b>2 points</b>	ほぼ正しく、文章の精度が高い。ほとんど間違いがない。 <b>4 points</b>	ミスの全くない非常に良い文章。 <b>6 points</b>
<b>内容の関連性</b>	内容に関連性がない。フォーラムで質問されていることに答えていない。 <b>0 points</b>	フォーラムで求められている質問の一部にしか答えていない。 <b>1 points</b>	フォーラムで求められている質問のほとんどに答えている。 <b>2 points</b>	フォーラムで尋ねられている質問のすべてに答えている。 <b>3 points</b>
<b>パラグラフ</b>	一文ごとに改行されている。または、すべての文章が一つの段落にまとめられている。 <b>0 points</b>	段落になっている部分と、一文ごとに改行されている部分が混在している。 <b>1 points</b>	文章はいくつかの段落にまとめられている。しかし、段落の分け方が適切ではない部分がある。 <b>2 points</b>	文章はいくつかの段落に適切にまとめられている。 <b>3 points</b>

図 23. 学習者のライティングを採点するためのルーブリック

## 10. 成績の表示

採点は「ユーザーレポートページ」または「概要レポートページ」として学習者に報告される。ユーザーレポートページにはコース内の各評価 (採点項目) の採点の内訳が表示され、学習者は各評価項目の計算された加重を見ることができる。ユーザーレポートページにはこれらの採点の根拠となる学習活動へのクリック可能なリンクが含まれる (図 24-1 参照)。コース全体の採点 (コース合計と呼ばれる) は概要レポートに表示されるものと同じである。

教員は Excel スプレッドシートを含む、さまざまなファイル形式で学習者の採点をダウンロードすることができ、また受講者が登録したすべてのコースのコース合計を表示する「概要レポートページ」を表示することもできる (図 24-2 を参照)。



図 24-1. ユーザーレポートページの成績



図 24-2. 概要レポートページの成績

### 1 1. 学習者とのコミュニケーション

学習者とのコミュニケーションは、Eメールおよび Moodle LMS 内のプライベートメッセージ機能を通じて行われる。Eメールは学習完了予定日のような、すべての学習者に関連する情報を送信するために使用され (図 25-1 参照)、一方、プライベートメッセージは個々の学習者に関連する事項を伝えるために使用される (図 25-2 参照)。

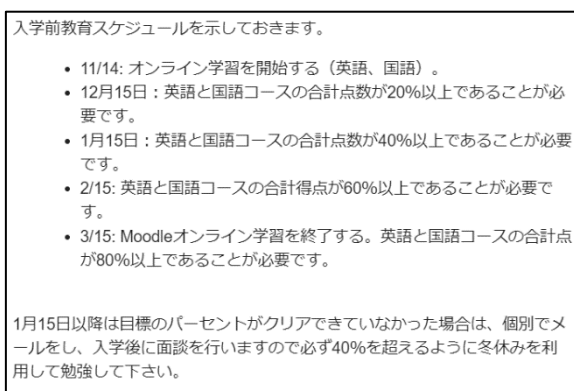


図 25-1. 複数の学習者へのメール

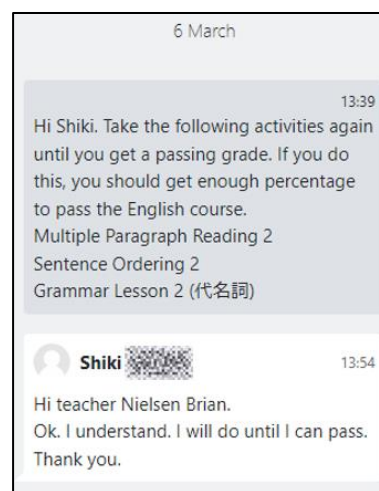


図 25-2. プライベートメッセージ

### 1 2. まとめと結論

Moodle LMS でオンライン入学前コースを作成することには、多くの利点がある。まず、学習者がコンピュータデバイスまたは Moodle モバイルアプリを介してモバイルデバイスのいずれかでコースを受講できることである。とくに、高校生にとってはスマートフォンのモバイルアプリを活用できることは大きい。

次に、Moodle HTML エディタを通じて、コースコンテンツに HTML テーブル、ラベル、

ハイパーリンク、オーディオ、ビデオおよび画像を追加することで、コースコンテンツを学習者により視覚的にアピールできるため、学習者を飽きさせず、学習に向かわせることができる。

また、学習活動間の簡単なナビゲーションに加え、Moodle LMS では学習者はプログレスバー、評価レポート、および達成したコンピテンシーを表示するページを通じて、コースの進捗および達成度を視覚的に確認することができる。さらに、Moodle バッジは、学習者に肯定的なフィードバックを提供することで、学習者のモチベーションを高め、学習意欲を高めるために使用することができる。

さらに Moodle LMS の利点は、Moodle に組み込まれた質問機能を使って、高レベルのインタラクティブ性とフィードバックをコースのクイズ小テストに組み込むことができることにある。例えば、与えられたフィードバックの中でヒントやメディアファイルを提供することで、フィードバックを増幅させることが可能となる。また、学習者は同じ問題に何度も挑戦することができ、それぞれの挑戦には評価、ペナルティ、またはヒントが与えられ、どの選択肢が選択されたかに応じて具体的なフィードバックが与えられる。

以上のように、受講者の入学前コースへの参加を促すために、Moodle LMS ではさまざまな学習活動を作成することができる。従来の多肢選択問題や記述式クイズに加え、ドラッグアンドドロップ問題、順番を決める問題、ディスカッションボード、適応学習を可能にする Moodle レッスン問題も使用することができる。

学習者が成功するまで何度もこれらの学習活動に挑戦することを奨励するために、無制限に挑戦し、最高挑戦回数を評価表に記録することもできる。

最後に、おそらく Moodle LMS を使用したオンライン入学前教育コースを作成する最大の利点は、ほとんどの採点が自動的に行われることであろう。そして、さまざまな各高等教育機関のニーズを満たすために、高レベルのカスタマイズが可能であることと思われる。

紙幅も尽きたため、このコースを受講したことによる具体的な教育効果やその結果の分析については他日を期すこととしたい。

## 注

(注 1) 文部科学省「令和 6 年度大学入学者選抜実施要項について (通知)」14 ページ、「『高大接続改革』に係る質問と回答 (FAQ)」3-5-1 などに、「特に 12 月以前に入学手続をとった者に対しては、積極的に当該措置を講ずることとする」と記される。

(注 2) H5P とは「HTML5Package」の略語。H5P を使用すると、利用者がただ見るだけでなく、クイズに答えたり書き込みをしたり、双方向のコンテンツが作ることができる。また、H5P コンテンツは Moodle のコース内にある「コンテンツバンク」というところで作成・保存が可能。

## 参考文献

- ・ De Silva, R. (2014). Rubrics for assessment: Their effects on ESL students' authentic task performance. Center for English Language Communication 4th Symposium Proceedings.
- ・ Locke, E. A., & Latham, G. P. (2006). New directions in goal-setting theory. Current

directions. *Psychological Science*, 15(5), 265-268.

- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2000). Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. *American Psychologist*, 55(1), 68-78.
- Swan, K. (2002). Building learning communities in online courses: The importance of interaction. *Education, Communication & Information*, 2(1), 23-49.
- 令和5年度国公立大学入学者選抜実施状況の概要  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/2020/1414952\\_00005.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1414952_00005.htm) (2024年4月23日閲覧)
- 大学学習資源コンソーシアム (CLR) 「大学学習資源における著作物の活用と著作権」(令和5(2023)年改訂版) [http://clr.jp/contents/files/guideline\\_jpn\\_2023.pdf](http://clr.jp/contents/files/guideline_jpn_2023.pdf) (2024年4月30日閲覧)
- 大塚智子, 関安孝, 喜村仁詞, & 武内世生. (2019). インターネットを介した入学前教育「高知大学入学前 Moodle」——学習意欲維持への試み——. *大学入試研究ジャーナル*, 29, 29-35.